

2015 年度 センター試験 国語 (現代文) (本試験) 分析

全体概況

試験時間 国語全体で 80 分

大問数・解答数	大問数：2 題	解答数：20 問	
難易度の変化 (対昨年)	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量 (対昨年)	○ 増加	○ 変化なし ● 減少	
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評</p> <p>評論は近代的な「歴史」の崩壊とリテラシーの関連について説明した文章で、昨年の「漢文と武士との関係性」を主題とした文章と比較すると一見読みやすいが、文章の論旨は意外にとりづらい。また、設問の選択肢自体が読み取りにくく、手こずった受験生も多いかもしれない。問 6 で 8 つの選択肢から正解を 2 つ選択させるという近年にない形の出題があった点が特徴的であった。小説は問題文の文章量が昨年よりも約 2 ページ分減少し、文体もエッセイ調で読みやすく、設問も比較的平易であり、前年よりは取り組みやすいと言える。評論・小説をあわせれば、昨年並みの難易度である。</p>			

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	佐々木敦『未知との遭遇』	50 点	インターネットによる情報収集の普及によって、近代的な「歴史」概念が崩壊したことを歓迎しつつも、それによる弊害に対して、啓蒙によるリテラシー形成の必要性を説きながら、啓蒙とは異なる未知なるものとの出会いの必要性を述べた文章。昨年同様各段落に段落番号が付されている。設問では傍線部問題が例年の 4 問に対して 3 問となり、文章全体の筆者の考えに対する設問と表現に関する設問を 1 問ずつとしたところが例年にない形であった。
第 2 問	小池昌代『石を愛でる人』	50 点	4 年連続で短編の全文が出題されたが、小説というよりはほとんどエッセイであって、きわめて読みやすい文章である。例年複数出題されている心情を問う問題が 1 問しか出題されず、本文の特定部分における人物像を問う設問が出題された点が特徴的であった。表現に関する設問でも例年見られる紛らわしい選択肢もなく、設問レベルは昨年度と比較しても平易であると言える。

2015 年度 センター試験 国語(古典)(本試験) 分析

全体概況

試験時間 国語全体で 80 分

大問数・解答数	古文：6 題（8 問） 漢文：7 題（9 問）
難易度の変化（対昨年）	古文：○ 難化 ○ やや難化 ○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化 漢文：○ 難化 ○ やや難化 ○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	古文：○ 増加 ● 変化なし ○ 減少 漢文：○ 増加 ● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	古文：○ あり ● なし / 漢文：○ あり ● なし
出題形式の変化	古文：○ あり ● なし / 漢文：● あり ○ なし
新傾向の問題	古文：○ あり ● なし / 漢文：● あり ○ なし
<p>総評</p> <p>古文は、擬古物語『夢の通ひ路』からの出題であり、人物の心情把握を中心としたセンター試験に典型的な設問であった。過去問題を使って読解対策をしていた受験生は問題なく解答できたと思われる。和歌が含まれたる文章ではあったが、和歌に関する修辞法も深い内容解釈も問われなかった。</p> <p>漢文は、二つの具体的エピソードとそれらに共通する著者の見解が述べられているセンター試験頻出の文章構成であった。毎年出題されている白文に返り点を付したり書き下し文に直したりする設問と、句形が解答根拠となる設問が少なくなり、代わりに再読文字や助字など基本的知識を問う設問が出題された。内容も理解しやすく、解答しやすいと感じた受験生が多いと思われる。</p>	

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 3 問	古文『夢の通ひ路』 ※室町・擬古物語	50 点	<p>本文の分量は昨年よりも減少した。本文は、リード文を踏まえた二段落（二場面）構成であり、場面・人物ともに把握しやすかった。</p> <p>問 2 では、センター試験では初めて、波線部 c で謙譲の補助動詞「給ふ」が問われた。</p> <p>問 4 では、和歌を含む二つの手紙文の内容が問われたが、これは 2014 年度に出題された三つの会話文の内容理解を問う設問形式を踏襲している。</p> <p>問 6 の本文内容一致問題は、例年通り本文の記述に忠実に即した選択肢を選ばなくてはならない。文章の丁寧な読解力が問われている。</p>
第 4 問	漢文『篁墩文集』 ※明代	50 点	<p>昨年の 184 字から 207 字へと増加したが、設問数は変化なかった。</p> <p>問 2 で返り点・書き下し文に関する設問がなくなり、再読文字・返読文字の読みを一文字だけで問う設問となった。1995 年の本試験以降は出題されていなかった設問形式である。いずれも漢文の基本学習事項の文字であり、多くの受験生が問題なく解答できたであろう。</p> <p>問 3 の助字の用法を単独で問う設問は初めての出題であった。</p> <p>例年と異なり、漢文の基本知識が多く問われており、漢文対策の有無で得点差が生じるであろう。</p>